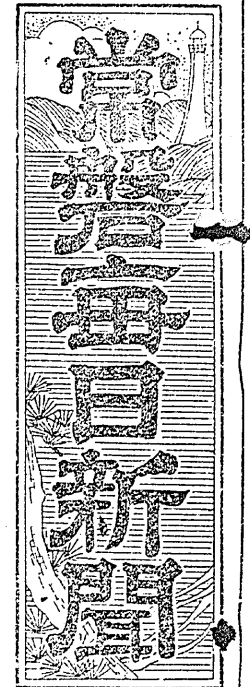


刊夕 日三十月三



定価 一部 一ヶ月五十五銭 郵費別  
廣告料 五銭 十二字 一ヶ月 五拾銭  
日曜 祭日の翌日 休刊  
発行所 常磐宮日新聞社  
印刷所 常磐宮日新聞社  
電話 六二〇番

### 追善法要の由来と心得 (三)

眞 繼 雲 山

また聖徳太子は生死兩貧を救ふために年忌法要の法を立てられたとあります。佛教とは生ける者も死せし者も二つなからを救ふの法でありすが、貧とは食して氣の毒な人のこと、生ける貧があるのは説明するまでもありませんが死貧とはどういふことかといふに、菩提の資に薄くして死後に三惡道に墜つる人のこととあります。この死貧のためには年忌追善の法を始められました。さうして生貧すなほ生ける貧者のためには悲田院(今の育見院養育院の如きもの)療病院施薬院、教化院といふ四箇院を大阪天王寺の四隅に建立せられました。後に奈良朝に入りて年忌追善の行事は一層盛んとなりました。

【問】親兄弟の死亡した日を忌日といふのは如何なる字義でありますか。死を忌み嫌ふ意でありますか。【答】否な左様ではありませぬ。これはもと儒教より出た言葉でありまして禮記の祭儀に『君子は終身の喪あり忌日の謂ひなり』とありまして、その註に『忌日は親、亡するの日に他事を擧ぐるを用ひず』とあります。つまり親を亡ふた日には追孝の至誠をもつて親を念ふ以外に心を移すことを忌み禁するの趣旨であつて、死を忌み嫌ふの義ではありません。年忌、月忌も同様であります。それゆゑ佛門にあつては又涅槃、誕生、成道、といふ日もあります。これも矢はり佛の涅槃に入り給ふた日お生れになつた日、悟りをお開きになつた日には身を清浄にせよ、不善を思ふてはならぬ他事に心を移すことをいみ禁するの意であります。

【問】成るほど。それでは死んだ日を命日とは何ういふわけですか、寧ろ生れた日を命日とでもいふて然るべきやうに思はれますか。【答】灌頂經には死亡の日を『命過日』といふてありまして、一期の壽命の過ぎ去つた日といふこと。命日は命過日の略であります。命過日のことを又『捨命日』とも申しますが矢はり捨の字を捨て、命日といふやうになつてのであります。

【問】日を精進日といふて魚鳥の肉を食はないのはどういふわけですか。【答】これは享保年間浄土宗西山派本山光明寺の第卅七世、澤了和尚の著した『集要或問』といふ書物の内に『死亡の日を精進日』といへるに由来します。精進とは素と六波羅密の一つであつて懈怠を策勵する意味つまり惡を止め善を修して一生懸命に働けといふこととあります。平日は家業に追はれて追善の營みも怠りがちでありますために、せめて親の命日には心を策勵して佛事に精進せよといふ教へであります。又二つには平常は小罪小惡も犯しがちであります。親の命日にはせめて殺生の果たる魚鳥の肉は避けるがよいとの意味から、命日を精進日と名づけて食物にも清浄を撰ぶやうになつたものであります。

【問】死亡の月を祥月とも正月ともいひますが、いづれが正しいのですか。【答】死亡せし月の命日のことを諳忍律師の梵網要解には正き月といふてあります。命過日を命日といふ如く、正月は正き月の略であります。

#### 有給外務員招聘

相當學力あり年齢二十才以上の者  
經驗の有無を問はず眞面目な奮闘の士を求む

固定給を給與す 委細面談

片倉生命保險株式會社  
平町鍛冶町代理店  
牛久陽弘  
電話三八七番

#### 外科 専門線 X

### 上田外科醫院

平町南町  
電話一三九番

#### 喜多流謠曲と仕舞の

### お稽古

平町町六九  
電話一三二番

### 玉屋洋品店

平町町通電話六五六番

#### 露披御車新

三四年型デラックスセダンが  
入荷致しました  
貸切の御用命の節は  
電話六八五番へ……  
是非御試乗の程を願ひます

### 三井タクシー

電話六八五番

#### 産科 婦人科 院長 木村寅次郎

#### 外科 醫學博士 内木宗八

藥局 藥劑師 立番彌一

平町新川町十九  
入院隨意 病室完備

### 木村病院

電話一六四番

#### 評判で香りのよい……

### 電熱ほうじ茶發賣

一號 一斤六〇 四半斤 一五  
二號 一斤四〇 四半斤 一〇

童 謠

大黒はしらは家の王  
お勝手道具は世帯王  
大勝園で買った茶は  
茶の間の王と客問王  
父様母様おすきの茶  
客のほめる茶 喜ぶ茶

### 大勝園

電話三九六番

# 請負業者が

## 平町役場に陳情

平町に於ける土木工事は内務省の匡救事業開始以來町の直營工事となつて殆んど請負者に指定がないため組合員は苦境のどん底に喘ぐ状態であるから従前通り指定請負はせられたしと左記陳情書に江口忠一氏以下組合員十九名連署を以て本日平町役場に陳情した

## 難所の名を一掃

### 御齋所峠の改修が竣工

工費四千八百圓を以て昨年八月末着工した御齋所峠の急勾配切崩し延長百五十米の道路工事は此程竣工近く小林平土木監督所長が出張竣工検査を行ふ筈であるが同所は難路御齋所として縣下に名高き難所であるが同改修工事完成により恵まれる所甚大である

## 志願者を

### 昨日既に突破

平町も年々入學難、平商業學校本年度入學志願者は明日を以て締切であるが本日正午迄の志願者は百八十四名で昨年度の志願者総數百八十名を既に四名突破して居り同校も年々入學難を告げて来る

## 實業校補助

### 割當額決定

郡下各町村の八年度に於ける實業補習教育費補助額は此程左の如く決定發表され

縣に於ては匡救工事の多數を公然請負に附し施工なし居らるゝもの有之候を見れば本縣工事に於ても必ずしも直營にあらざれば施工なし能はざるものとは思考致難候  
右事情御諒察被下度組合員一同連署を以て及陳情候也

## 轉校児童

### 區域變更で

平第三小學校の校舍増築による平町児童の通學區域の變更は来る新學期から行はれるが第一、第二兩小學校から轉校される児童數は男兒九十一人、女兒九十人と決定した

## 選抜の馬匹三頭

### 郡山の共進會に出陳

石城郡畜馬畜産組合では來る四月二十六日から四日間郡山市に開催される縣畜産聯合會主催の馬匹共進會に對し第一區(田人村)第二區(三坂村)第四區(川前村)から各一頭を出陳することに決つた、尙川前村では來る二十五日畜馬總代理人會を矢内半藏氏宅に開き出陳希望馬四頭の中から今井組合技手により選抜すると

## 米穀共同販賣

平、神谷、草野、テ町村農業會

## 平陽卒業式

### 明日舉行

平町平陽女學校では明廿四日午前九時より第廿九回卒業生の卒業證書授與式を舉行するが卒業生は専攻科十四名、計五十七名である卒業生氏名左の如くである  
(専攻科)堀川マサ 吉田マサ 小野重宇子 大森タネ 久保田イツ子 國井カネ 山城カネ 木幡ユキ 平山マス 佐藤シナ 森藤枝 白土シロイ 鈴木シツヨ 鈴木美代志 (本科)猪狩フミ 猪狩美代 竹本慶子 高木千代子 平子タカ 瀧澤キミ 井砂トシ 山野邊ハツミ 右内アツ 木田キヨ 佐藤季子 志賀キヨ (技藝科)伊藤利子 本郷ハル 豊島キミ 菅野ミヨシ 賀澤八重 吉田キミ 根本幸枝 根本久子 青天目ハルヨ 鷗沼保子 野木ヒロヨ 大泉ヨシ子 大和田光江 久保田フミ 柳田ハツ子 赤沼キミ 佐藤愛子 酒井ミエ 佐久間トクイ 齋藤ナミ 家本トシ 佐藤ヒサエ

佐川ノブ 木田タライ  
下藤トク 鈴木イエ 鈴木キミ 須藤スミ子 鈴木千代子 鈴木チヨ 江尻フヨ

平町 人事  
回死 亡

△紺屋町一九 小堀通久  
△六間門五 奥津鶴次郎  
△立町九六 矢部サヨ  
△古鍛冶町三九 樋口ロク

来る 二十五日より

星野時計店  
可愛御子様の卒業御進呈、御入學の記念には是非……ブレゼントとして喜ばれる星野の時計をおすすめ致します。

小店員數名募集  
年齢十五才ヨリ 優遇

御希望ノ方ハ午後一時ヨリ本人御來談下サイ

平町田町一七  
レストランサロン  
電話三五二番

井坂醫院  
産科 婦人科 花柳病科  
◎入院隨意  
平町田町 電話五五九番

磐城セメント會社特約店

良品廉賣に勝る商略なし  
確實敏捷は生命なり

磐城平町五丁目 電話九番九九番

# 表彰に輝やく

## 郡下卒業児童

### 成績優良の百五十六名

石城教育會では郡下各小學校及び實業補習校青年訓練所の本年度卒業並に終了者中左記成績優良者に對し、それ〴〵部會賞を贈る事になつた受賞者は小學校百五十六名、實業補習校五十五名、青年訓練所四十四名、合計二百五十五名である因に郡下小學校の受賞者氏名左の如くである

(好問)鈴木安正(養輪)片寄サクノ(澤渡)佐藤甚内平野勇 駒嶺重也(入遠野)永山忠人 永山照雄 平子敏子(勿來)保保員 青天目米 鈴木皆雄 安島督 青天目ミサヲ(大野)荒川勳(鹿島)志賀房 子 永井忠枝(勿來)國井新一(玉川)竹子トク 齊藤見郎(内郷)廣木順(磐崎)曾我利保 春川チカ(平)猪狩寅彌 井上和子 坂本行藏 柴造讓 伊關太郎 松崎康利 和氣隆一(川前)重川喜清(平窪)松本金太郎 上妻伴吉 (江名)佐藤良江 加澤トク 安龍トミ 白土徳雄 (小名瀨)鈴木徳衛 藁谷勝男 井上津枝子 小松サト 遠藤英善 草野シヅカ(渡戸)萩野一博 草野シヅイ(磐崎)芳賀好孝 高木庄太郎 高木喜代子 (湯本)岩堀達 五十嵐善

作 廣川ミサヲ(田人)齋藤末吉 伊坂マサ 菅家勝美 蛭田光男 小澤英男 蛭田一馬 齋藤喜豊 間 鈴木盈雄 鈴木節子 鈴木トク(山田)澤田久 逸見ヒツ 蛭田富一(内郷)鈴木ユキ 菊地惟起 佐藤アサヨシ(赤井)吉田幸男 大平ヤス 鈴木静雄(錦)佐川千代 根本直喜 星明(磐崎)矢内英夫(赤井)鈴木三與志 栗城越(上遠野)久野慎一郎 柴田加代 馬上正光 生田目チヨ(好問)佐藤強 佐久間光永 中川タモ子 猪狩鈴枝 河村正治 矢内博 井上千枝子 鈴木千代子(四倉)船生静夫 芳賀英子 田中浩三 鈴木幸平 佐藤菊子(高久)大谷登志子 片寄彦次郎(中三坂)大竹治徳(下三坂)内藤善次 熊谷直身(差鹽)熊谷正子(桶賣)根本繁(箕輪)小沼好五(合戸)合津ノブ(大野)長谷川義治 柳部忠文 寺岡キン(渡邊)高木久 草野功(大浦)猪狩行夫 岡田スミ子 久野忠吉 古市イノ(植田)八化經嘉 鈴木トミ 瀬谷良男 千葉ミツ(湯本)上村長吉 佐藤信介 渡邊ミサヲ 平山キク 木村一郎 松尾

巨博 鯨ノアイ(夏井)鶴沼トシ 渡邊セツ(川部)酒井伊佐夫 胡ロトク 小泉シヅ(泉)瀧内作榮 松井静江 山崎脩 吉田シズ(内郷)遠藤正清 濱崎末吉 小野百合子 井上政雄 宮岸國雄 上野宣松 武田キヨ子 小林幸子 青木安晏 橋本俊男 遠藤喜久男(三坂)吉田恭平(飯野)林一衛 山崎滿(草野)中野一 佐藤仲 芳賀マサイ 宇佐美金廣郎(平)渡邊泰子 橋トヨ 鈴木芳子 近藤シ

## 落盤壓死の 慰籍料請求取下

けふ無條件で和解が成立

既報内郷村字御殿山四二居住増出リツは去月廿四日次男謙吉(三)が高坂坑内で落盤の爲め壓死したので眞木辯護士を代理人として磐城炭礦を相手取り遺族の扶助並に慰籍料五千圓の賠償訴訟を起した事件に其後會社側でも門前辯護士を代理人として應訴中の處本日示談が成立し訴訟を無條件で取下げた由

## 花時の 店頭裝飾

競技會開催

平町長橋町には新報社では例年の如く来る四月十三日より十八日迄の花時を期し第四回店頭並にショウウ

明日のラジオ

廿四日

今朝も明日も北西の風晴曇半す

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
お話「時差」山本一清  
後六、二五 言葉の講座  
(第二十講)耳言葉目言葉  
(終)神保格  
後七、三〇 講演  
後八、〇〇 新内生寫朝

谷 鹿島 各一 内郷二

澤村神社

寶物殿修築

草野村澤村神社の寶物殿は最近腐朽甚しく神体の尊嚴を冒すおそれありとし社司吉田壽義氏子總代金賀捨外八名發起人となり寶物殿の修築を行ふことになり工費四百九十八圓の豫定で設計を了したが小川江水利組合からも應分の寄付を受けるべく昨日發起人から陳情あつたと

平消防 出場

火災回数

平消防組の調査による昨年四月から本年三月に至る一ケ年間に同組が出場した火災回数は合計二十五回で此内町内に十八回、他町村七回、で内譯左の如くである

月見町七 立町三 新川町三 小太郎町 一丁目 鎌田 白銀 五丁目 夏井村 赤嶽井 草野 神

平消防 入所員募集

平青年訓練所では来る四月より入所する新所員募集に着手するが希望者は本月末日迄に第一小學校へ照會あり度いと

基督教婦人會

平町基督教婦人會では来る二十日午後一時半から十五日日本基督教會に於て例会を開き中村牧師の聖書講演があり終つて懇談茶話會を開くと

北目火防出初

火防組では二十四日午前十時から出初式を舉行する

磐女職員會

磐女で本日午前十時より職員會議を開らる廿七日より三日間行はれる入學試験に就いての打合せを行つた

裁判所たより

△昨報湯本町の軍鶏賭博犯同町大高八百吉、鈴木太平箱崎義一等三名の公判は昨日午後一時より平區裁判所法廷に中島裁判長係り清田檢察立會松野尾、武田、門傳各辯護士列席の上開廷され箱崎は懲役五ヶ月罰金二十圓、大高及び鈴木は各懲役二ヶ月罰金廿圓を檢事より求刑されたが言渡は来る廿六日である

△平町鎌田町木賃宿渡邊濱吉方宿泊人千葉與之丞(五)は昨年七月より本年三月上旬迄無免許で神谷村字中神谷江尻留保外三十五名に對し灸点を行ひ鍼灸術營業取

後九、三〇 時報

ス 氣象通報 番 預告

明日

前七、〇〇 基礎獨語講座 (三十二) 橋本忠夫

前九、一〇 料理献立「糸菊」の南はん煮

前一一、〇〇 彼岸會法要 (第七日)日蓮宗大導師身延山八十三世望月日謙

後一〇、〇五 琵琶

後一〇、三五 趣味講壇「現代のフランス畫壇と日本の洋畫との關係に就て」石川誠

後六、〇〇 子供の時間

クラネットと管絃樂一

管絃樂「ハンガリアン舞曲」ニクラネット獨奏

クラネット進行曲 クラネット進五郎 アルメリヤ

管絃樂團

後八、〇〇 箏曲「調の榮」二、相生の曲」富崎春昇

後八、二五 歌澤「天の戸」二、わしが國さ」歌澤相模

後八、四〇 連續ラヂオドラマ 第三回「富岡先生」井上正夫外

平職業紹介所報告

求人を求める方

△大工 二十―三十才位 尋卒 日給七十錢一圓位

△商店雜役 十八才―三十才 教育程度不問

△トラ手ク助手 十七―二十五才 高卒 八圓位

△自動車助卒 十五―十七才 高卒 仕着小遣

市原醫院

平町 田町 電話二一四番

△女中 二十才位 尋修 給料面談

△商店雜役 十七―二十才位 尋卒 月五圓

△回 職を求める方

△土工夫 四十才 尋卒

△土工夫 六十一才 尋三

△事務員 十九才 中卒

△雜役 五十四才 尋四半

平町長橋町には新報社では例年の如く来る四月十三日より十八日迄の花時を期し第四回店頭並にショウウ



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演  
山本英春 畫

第百八十七回

徳川家に崇る村正

不思議な救主

平「旦那様恐れ入りますが一寸お立たせなすつて下さいまし」

と仲間平助しかめつ面をしてゐる傍から由松が

由「平助さん、あなた持病ならこの八幡様へお祈りをするよと治りますよ」

平「ふざけるな口の悪い男だな、持病で腰を抜かす奴があるものか」

由「それでもこの位のこと腰を抜かす様ではチョイチョイお抜けになるのではございませんか」

平「馬鹿にするなそんなにチョイ／＼抜かすものか」

彼の武士も笑ひながら

武「サア平助立たしてやるから拙者の手へつかまれ」

平「とんだお手数をかけて相済みません」

漸く平助主人に立たしてもらつて

平「サア／＼早く参りませう、こんな物騒な處に長居をするのは宜しくありません」

武「大きにそうだ、サア参らう、若者お前はとうする」

由「誠に済みませんが私も御一緒にお連れなすつて」

武「お前の家まで送つて」

由「どういたしまして家へなどもう歸れません、今までの家へ歸らうものなら死に行く様なもので」

武「左様か、何れ深い仔細があらう話は歩きながらさ

○「それでは何か、お前の道場の主人であり又親の仇であるといふのは水上五太夫といふ男か」

武「丈は高いか低い」

由「左様でございますな、高い方で五尺四五寸でございますか」

武「それは大きな男だな顔は長い方が圓い方か」

由「長い方でございませぬ」

武「以前はどういふ身分の者か知らぬか」

由「嘘が真か知りませんが師範代の者の話では元は旗本であつたといふ話でござ



く事にしてとに角拙者の邸まで一緒に参れ」

由「有難う存じます」

それから三人連れ立つて白山より小石川の小白向を指して立ち戻る途中ながら由松が身上話を詳しく致し

ますと彼の武士は小首を傾けて

武「ナニ旗本だ、水上五太夫だ」

由「旦那様も存じでございませぬか」

武「イヤ拙者も實は旗本だが水上五太夫などといふ旗本は聞いたことがない」

由「それ／＼出鱈目を言つ

てゐるのでございませうか」

武「そうだが旗本でもないのに旗本と申してゐるのかそれとも亦旗本であつたのは事實で現在偽名を名乗つて居るのか、何れとも分らん」

由「何にしても宜しくない奴には相違ございませぬ」

彼の武士は四邊を見廻してゐたが

武「コレ由松、斯様の事を往來で話すのも如何だが幸ひ四邊に人もない聞く者はその方と家來の平助ばかりで、此の平助は拙者の親の代から使へてゐる者で遠慮はないから申すが此方は天下の旗本で中根源太郎といふ者だが、その方と同じやうに仇を持つ者だ」

由「へエそれでは旦那様も阿母さんの仇討ちをなさらうといふので」

源「イヤ拙者のは母ではない父並に姉の仇だ、その仇は元旗本であつた溝口五左衛門といふ奴だ」

由「へエ」

源「先生甲州に於てその仇と出會致し劍を交へながら残念にも取逃した」

由「それは口惜しうございませぬ」

源「拙者は仇討のため長らく諸國を歩いて居つたのだが溝口が谷川の急流へ落ち込んだ事故とても存命は致してゐないかと考へ本意なくも江戸へ立ち戻つて参つたのだが、只今その方の話を聞くに水上五太夫といふ劍客がどうもその溝口と同一

の様に思はれてならん、萬一其奴が溝口であれば其方にとつても仇なら此方にとつても仇だ、共々力を合せて彼を討ち取り親々のご無念を晴らして差上げねばならぬ」

由松思はず躍り上つて喜んだ

由「そうでございませぬか、そういふことなら私もどんなに心強いかなれませぬ」

源「又溝口と別にした處で縁あつて其方の一命を救つたのだから、この上とも力を添へて必ず本懐を遂げさせてつかわすから安心いたせ」

由「有難う存じます何分よろしくお願ひいたします」

源「何に致せ、仇の所在は分つてゐるのだ、併して彼も現在相當の暮しをして居るからは途電致す様なことはあるまい何かとして彼の素性を調べるといたさう」

それより打ち連れ立つて小白向水道町の中根の屋敷へ立ち戻りました。

### 店員募集

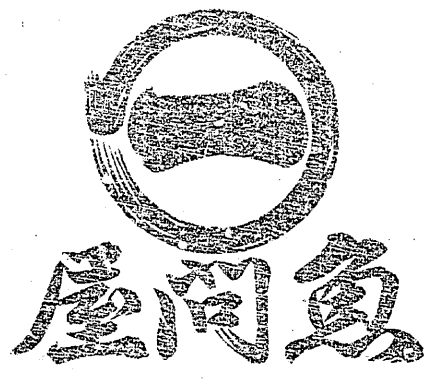
- △小 店 員 五 名
- BA 十三才より十五才迄尋常科卒業生三名
- 十四才より十七才迄高等科卒業生二名
- △店 員 参 名
- 十六才より十九才迄商業、中等學校卒業生

○優待制度の外特別賞與を支給す。  
○御希望者は御面談（履歴書を要す）  
○御面談は一週間前に御通知を乞ふ。

化粧品問屋 **大黒屋勝次商店**  
卸部 平町三丁目（本通り）  
小賣部 三丁目角（常磐銀行前）  
電話長一六番

かまぼこ 製造  
お惣菜用 さつま揚  
吉原揚 **三不孫實**  
平町一丁目  
電話一四一

ほしやなぎ  
いかの鹽から  
鱈魚の子



店理代平命生本日本最優最  
榮 盛 賀 志  
(三一二電)目丁四平